

奥久慈・姥ヶ岳・大岡山

T野

- ◆日程：2025年11月22日～24日
- ◆山域：奥久慈・東北
- ◆メンバー：名（T野・A原・S田石J）
- ◆形態：ハイキング・山スキー
- ◆ルート：
11/22 奥久慈・湯沢源流～籠岩山
11/23 志津温泉～姥ヶ岳
11/24 大岡山

2～3日前、この季節としては強い寒波が到来。どうやら酸ヶ湯では1m超えの積雪があったらしい。当初、この連休は鈴鹿の山々をハイキングしようと計画していたが、この情報を聞いて気持ちが変わった。酸ヶ湯で1mオーバーなら志津温泉だって負けてないはずだ。そして、11/24は晴れ予報！！旨い具合に先週、新車のシエンタのタイヤもスタットレスに変更済だ。

これは姥ヶ岳に行くしかないでしょう！！

早速、メンバーに連絡して賛同を得られたので、押し入れ奥深くに眠っている山スキー道具を引っ張り出す。ただ、3日間とも姥ヶ岳では飽きそうなので、初日は紅葉が見頃になっている奥久慈、最終日は蔵王のオープン前のゲレンデを滑ることにして、こんな盛りだくさんな計画が出来上がった。ということで報告です。

11/22 奥久慈・湯沢源流～籠岩山



前夜は「道の駅・さとみ」で仮眠。ここは静かで良い。いつものようにコンビニで朝食を取り、入山口のつづじヶ丘へ。ここはトイレもあり奥久慈の山々の展望が良い。

8:00に出発。少し車道を下って、廃墟の脇から登山道に入る。初見だとわかりにくいが、もう何回も来ているので迷うことはない。登山道を少し歩くと不動滝。いつもと比べて水量が少なく、滝というより崖という感じだ。この辺りからハイグレードハイキングとなる。足場の悪い右岸を高巻き、しばらく沢沿いを歩く。いつも濡れないように注意を要する場所だが、今日はほとんど水が流れていないので楽に歩ける。途中から登山道は左岸の尾根に上がって行くが、我々はこのまま沢沿いを源流に向かう。

- 写真上 つづじヶ丘から奥久慈男体山から連なる奥久慈の山々を望む。
- 写真下 早くもいい感じのモミジ林が・・・。



見上げれば早くもいい感じに色づいたモミジの樹々が美しい。沢沿いは巨岩が重なり合い、うまくルーファイしないと行き詰まる。でも、それが楽しい。沢とはいえ、水はほとんどないのでス



二カーでも歩ける。巨岩のゴルジユを登って行くと、ちぎれた鉄梯子のある滝が出現。「抱き返しの滝」である。見上げる紅葉とともに絵になる滝だが、今日はほとんど水が流れていないのが少し残念だ。ちぎれた鉄梯子は10年以上前からそのままだが、自己責任でずっとこの梯子を利用して登っている。案外壊れないものだ。

この滝を越えると傾斜が落ちて、落ち葉が沢を埋め尽くし日本庭園のような沢を登って行く。ここ、湯沢源流は決まった道もなく、数ある奥久慈のルートの中でも特にワイルドで僕の大好きなルートだ。笠岩山に登るには途中、350mにある二俣を右俣に入る。ただ、この沢は最後に滝で行き詰まるので、適当な場所から左岸の尾根に這い上がる。尾根に上がれば、のどかな雰囲気で紅葉も美しい。この尾根を詰めていけば笠岩山直下で登山道と合流して小さな冒険が終わる。

ただ、ここからの一般登山道もキレットが2つあってなかなかのアドベンチャー！！楽しいルートだ。岩稜もあり、景色がキレイで奥久慈の山々はもちろん、奥日光や那須の山々、谷川方面の白い山や富士山も確認できる。筑波山もこちらから見るとなかなか立派な山容だ。そして、東の方には太平洋が輝いている。

「景色を見る時は立ち止まってね！！」足元がおぼつかない縦走路なので不用意な行動は避けよう。チエーンスパイクやヘルメットも持参した方が良いだろう。

- 写真上 落ち葉が敷き詰められて日本庭園のような湯沢源流。
- 写真中 笠岩山直下の岩峰。
- 写真下 低山だが景色は素晴らしい！！



さて、2つのキレットを注意深く超えれば、今度は目を見張らんばかりのモミジゾーン！！素晴らしい錦秋の世界が満喫できる。つくづく変化に富んだ良いルートだ。下って行くと籠岩の展望台。ここから少し降りたところに籠岩の中ほどにある遊窟に登る梯子があり登ってみたところ、結構揺れて僕にとってはここが今回一番の緊張。

この辺りまでは里山とは思えない深山の趣が漂っていたが、ものの3分も歩くと、こんなところにポツンと集落が・・・。平家の落人伝説でもありそうな雰囲気である。ここはイチョウの紅葉がいい感じ。人家の入口横から再び山に入って（ここも初見だとわかりにくい）、少し下ればつつじが丘はすぐであった。

4時間にも満たない半日コースだったが、ジェットコースターのようなアップダウンの連続で、標高差や時間の割にはタフなコースである。それでも歩き足りない人は明山まで歩けばさらに充実すること間違いないし。やっぱり奥久慈ワンダーランドは楽しいな！！

さて、いい紅葉も見ることができたし、白河で美味しいチャーシューワンタンメンを食べて、思い残すことなく雪の月山に向かおう！！

■写真上 キレットの通過はなかなかワイルド！！

■写真中 キレットを越えると素晴らしいモミジゾーン！！

■写真下 今回一番緊張した揺れるハシゴ登り。

今日の宿は、さくらんぼ東根にある小ぎれいなホテル(TASSO)。近くに温泉もあり汗も流して快適に熟睡。

◆コースタイム

つつじヶ丘 (8:10) ~ (8:20) 不動滝~ (8:55) ちぎれた鉄梯子の滝~ (9:56) 篠岩山 (10:12) ~ (10:55) 篠岩展望台 (11:20) ~ (11:50) つつじヶ丘

11/23 志津温泉～姥ヶ岳



付いていて良い斜面だが、如何せん狭く、ここしか通れないで登った人は帰路に漏れなくここを滑ることになる。ということで、すでに斜面はギタギタ。帰りの滑降もここは期待薄だろう。

さあ、今年お初の山スキーである。例年だと年末が初山スキーになるのだが、先週の寒波に誘われてフライングを決めた。だが、志津温泉に近づくと思ったより雪が少なくちょっとがっかり。除雪終了点は、まだほとんど積もっていない。だが、いつもの道路標識の場所では少ないながらも雪がありシール歩行が可能となる。まだストックを指すとコンクリートに当たるので積雪5~10cmというところだろう。7:20に出発、しばらく車道を登る。

徐々に雪が増え、途中から辛うじて電柱沿いの短縮ルートも使えるようになる。ただ、下りはまだ無理かな。最後は車道に戻り大きく迂回しながら緩く登って行く。ここは果たして帰路で滑ってくれるだろうか？

やがて、9:20にいつもの出発点、見覚えのある姥沢に到着。まだ雲が多いものの湯殿山や姥ヶ岳が姿を見せててくれる。でも、まだそこらじゅうにモジヤモジヤなブッシュが見えている、快適に滑れる場所は限られているようだ。

リフトまでの道すがら、いつもは多量の雪に埋まっている沢が跡形もなく消えているので横を沢が流れているのを見て「アッ、こういうところだったの？」という感じで新鮮だった。

■写真上 いつもの道路標識、まだ手が届かない。

■写真中 電柱沿いの短縮ルートは登りなら何とか利用できた。

■写真下 天候が回復ってきて月山が顔を出す！！

スキー場はまだ藪が濃いので、ここからはリフト下を登る。雪はしっかり



さて、登るにつれ天気は良くなり、朝日連峰や月山・姥ヶ岳の上部を隠していた雲が切れてきて、素晴らしい天気になってきた。仮に滑れなくともこの雪景色を見られただけでも、今日ここまで来た甲斐があるというものだ。

そして、リフトトップに着くと辺りの雰囲気はがらりと変わる。この上はどこでも滑れそうな大斜面が広がる！！

やったー！！これは楽しめそうだ！！



なにはともあれ姥ヶ岳を目指す。すでに何本かシュプールはあるが、まだまだお絵かきが楽しめそうだ。気持ちばかりが急ぐが、足はいうことを聞かず無理をする

と太ももが攣ってしまいそうなのでダマシダマシ登つて行く。そして 11:20 ようやく姥ヶ岳着。登りに約 4 時間を費やした。



■写真上 リフト下を登る。
■写真中 赤見堂岳の奥に朝日連峰の以東岳が競り上がる！！

■写真下 姥ヶ岳山頂！！
後方には純白の月山！！

山頂からの景色は素晴らしかった。特に月山は残雪期と違い、汚れのない純白。

佇まいが神々しく、その姿は厳冬期の山の「淵み」すら感じる景色であった。

存分に景色を楽しんだらいよいよ滑降だ。四ツ谷川に落ちるカールを気持ち良く滑って今年



2025.11.23 11:43



2025.11.23 11:44

の初山スキーを満喫！！ただ、滑降にそれほど興味のないジンジュンは「登り返しが嫌なので往路を戻ります。」とトラバース気味に降りて行ってしまった。「せっかくここまで来たのにもったいない！！」と僕は思うのだが価値観は人それぞれ・・・ということだ。

僕とA原さんは標高差で200mちょっと、時間で10分にも満たなかったが、最高の時間を共有した。登り返しも標高差70m程で、心配した藪に捕まることもなく巧くルートが採れた。

リフトトップでジンジュンと無事合流。

さあ、下山だ。リフト下を滑って行くが予想通りギタギタでここは消化試合。さらに車道を滑って下山する。ここは思ったより滑り、ほとんど歩くことはなく、その点は助かった。ただ、立ちっぱなしの長距離自動運転は、まだ滑り慣れてないがゆえ、太ももが悲鳴をあげてしんどいことこの上ない。我慢の滑りを続け、それでも板を脱ぐこともなく13:30に無事下山。

約6時間の行動で快適に滑ったのはわずか10分程度。それでも天気は素晴らしい、景色も最高、そして、その10分こそが至福の時間だったので充分満足。いいシーズン始めになった。

- 写真上 至福の時間！！
月山に向かって滑るA原さん。
- 写真中 至福の時間！！
快適に飛ばす僕。
- 写真下 至福の斜面を横切
るジンジュン。



(11:20) 姥ヶ岳 (11:42) ~ (12:05) リフト上駅 (12:21) ~ (12:31) リフト下駅
(12:50) ~ (13:30) 志津温泉

アフタースキーは「道の駅・にしかわ」で温泉に入つて汗を流し、寒河江のとんかつ屋でボリュームたっぷりの上ロースカツ定食に舌鼓を打つて、今日は朝日町にある民泊施設（松本亭）に泊る。ここは由緒ある古民家のように、リーズナブルでレトロな雰囲気がなかなか良かった。

ところで、今シーズン、朝日町だけで 50 頭のクマを駆除したという話を宿のスタッフから聞いてビックリ！！

「それって町民よりも多いんじゃない！！」と言ったら「いやいや、さすがにもう少しいますよ（笑）」という答えが返ってきた。それにしても、何で急にクマの出没がこんなに増えたのだろう。徐々にではなく急にというのが気になる。今年だけで終わってくれれば良いのだが・・・。

◆コースタイム

志津温泉 (7:20) ~ (7:35)
いつもの道標 (7:39) ~ (9:20) 姥沢~ (9:36) リフト下駅 (9:56) ~ (10:39)
リフト上駅 (10:57) ~ (11:20) 姥ヶ岳 (11:42) ~ (12:05) リフト上駅 (12:21) ~ (12:31) リフト下駅
(12:50) ~ (13:30) 志津温泉

11/24 大岡山



当初の予定ではオープン前の蔵王のライザスキー場でスキーをしようと思っていたが、昨日、しっかり楽しんだのと雪の量が思ったより少なくて滑れない可能性も高いことから、スキー場に行くのは止めにした。

■写真上 10分の快樂でした！！

■写真中 さあ、下山しよう。

■写真下 ガスに煙る大岡山。

さあ、今日どうしよう？
雪のないトレッキングシューズで歩ける



ところで、良さげなところはないものか？

ヤマップで「山形」で検索すると、「大岡山」という山がやたらとヒットする。初めて聞く名の山だが、どうやら地元では愛されている山のようだ。標高 400m、コースタイムも 2~3 時間と手頃だ。よし、ここに行こう！！と話がまとまり、登山口へと車を走らせる。

山形北インター傍の登山口には 8:00 前に着き、準備して 8:05 出発。すでに大岡山の全容が見渡せ、その全山黄色っぽい山容はまだ紅葉が残っていそうだ。期待して歩いて行く。里山の割には天然林に覆われて自然が豊か。クマもいるようで、人間の存在を知らせるための拍子木が適度な間隔で置いてある。これを叩いてクマに存在を示す仕組みのようだ。拍子木がないところにはドラム缶と木の枝が置いてあって、どうやらドラム缶を木の枝で叩いて存在を示すようだ。いやいやこのアナログさが何ともほほえましい。また、だれが書いたのか、馴熟の効いた説明や小話の道標もあちこちにあり、それを読みながら登れば急登も気にならない。つくづく地元の人達に愛されている山だということが分かる、ひょっとしたら毎日登っている人なんかもいるかもしれない・・・そんな山だった。



■写真上 クマ・・・いるんだね。

■写真中 大岡山山頂からは山形市内が良く見える！！

■写真下 紅葉も少し残っていた。



山頂からは山形市内が眼下に広がり、晴れていれば月山や朝日連峰もキレイに見えるようだ。残念ながら今日は曇りで山は雲に隠れてしまっていたが、楽しく歩

けた山だった。周遊して約2時間。適度な朝活登山だった。

帰路は、汗もそれほどかかなかったので温泉はパス。「山形道へ行け」というナビの指示を無視して東北中央道を行ったら通行止め区間があり、事故渋滞にはまる。最近のナビは最適なルートを指示してくれるようでもういいみたいである。

■写真上左 不気味な石像。

■写真上右 やっぱりいるんだ。

■写真下 The 里山、市民に愛される大岡山！！

下山飯は安定の安達太良SA名物五目焼きそばで締めて帰京。3日間盛りだくさんの計画だったが紅葉とスキー両方を満喫して、旅としても楽しく良い3日間だった。いつもながら、ご一緒いただいたメンバーのA原さんとジュンジュン、有難うございました。

◆コースタイム

大岡山登山者駐車場（8:05）～（8:54）大岡山（9:20）～（9:51）三吉清水（9:55）～（10:06）大岡山登山者駐車場